

全国商工新聞

長岡版

発行編集
長岡民主商工会
長岡市中沢167-1
☎ 33-5948

2017年
8月28日
第1872号

「歴史は70年周期で動く」という説があるようです。終戦から72年を迎えた現在、政府は日本を再び戦争する圏へと変えようとしています。これを許す訳にはいきません。

平和でこそ商売繁盛、ストップ暴走 核兵器禁止、戦争法反対の大きな声を

今年も8月6日に広島で、9日には長崎で平和を祈念する式典が行われました。また、15日の終戦の日には戦没者追悼の催しが開かれました。しかし、これらに出席した首相の態度は、核兵器廃絶や平和を求める願いに背を向けるものでした。

7月、国連会議で核兵器を違法とする核兵器禁止条約が採択されるという歴史的快挙がありました。しかし、全核兵器保有国と米国の核の傘下にある日本、韓国、NATO加盟国などはこの会議への参加を拒否しました。

広島市長は平和記念式典で、核兵器を絶対悪と断じ、日本政府に「核兵器禁止条約の締結促進」を訴えましたが、安倍首相はこれに触れず、「核兵器のない世界を実現するには、核保有国と非保有国双方の参画が必要」と条約を否定しました。

長崎市長は平和祈念式典において、核兵器禁止条約の交渉会議に参加しない日本政府を批判し、条約への参加と核の傘に依存する政策の見直しを政府に迫りましたが、首相は広島での平和式典出席時と同様の発言を繰り返して、ここでも条約を否定しました。

首相は、政府主催による全国戦没者追悼式典で「戦争を二度と繰り返してはならない」「歴史と謙虚に向き合い、この不動の方針を貫く」としながらも、歴代の首相が述べてきたアジア諸国に与えた損害と苦痛や「深い反省」には言及しませんでした。侵略戦争を正当化したいのです。日本は今、戦争への危険な道を進んでいます。しかし、私たち中小業者は平和でこそ商売が繁盛します。首相の暴走を止め、核兵器禁止、戦争法反対の大きな声を上げましょう。



母親運動続けることが大切

―県母親大会 まとめの実行委員会―
5年ぶりに長岡市で開催された新潟県母親大会。8月8日、大会に参加した団体が集まる最後の(まとめの)実行委員会が開かれ、長岡民商婦人もこれに出席しました。

実行委では反省や今後の検討課題を話し合い、「迎える側となり、大会を主催する難しさや苦勞がよくわかった」、「手作り感あふれる大会になり、良かった」など、多くの感想が出されました。

当日行ったアンケートに「やっぱり母親大会はいい！継続していくことが大切ですね」という声がありました。オープンニング「もう一つの長岡空襲」について「初めて知った」「戦争体験を風化させてはならない。このような取り組みをこれからも続けていってほしい」という意見もあり、運動を継続することの大切さを改めて感じました。今回得られた経験や反省を、次回の長岡開催時に活かしたいと思います。



記帳の進みはいかがですか？ 班や支部で集まりましょう！

もうすぐ8月も終わり。3月の確定申告から早くも半年が経過しましたが、記帳の進みはいかがですか？忙しい毎日ですが、少しずつでも申告に向けて記帳しましょう。半年間の商売の振り返りや見直しにもなります。また、資産や土地の売買などは、通常の申告用紙に加えて、別紙書類が必要です。可能なこと(も)は、今から準備・相談しましょう。()は、今から準備・相談しましょう。ぜひ班や支部で集まり、記帳や商売、情勢などについて話し合いましょう。

